

I 課題「今、なぜ『考え、議論する道徳』へと授業を転換しなければならないのか！」

- 1 教師の指示待ち（価値の押し付け）・読む道徳からの脱却
- 2 いじめ問題への対応（現実の問題を解決する力）
- 3 時代の変化（多様な価値観）
- 4 考え、議論する道徳（答えが一つでない道徳的課題）

II 道徳科の目標と、その意味

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、
道徳的諸価値についての理解*1を基に、自己を見つめ*2、物事を多面的・多角的に考え*3、自己の生き方についての考えを深める*4学習を通して、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度*5**を育てる。

- *1「道徳的価値の意義及び、その大切さの理解」：①価値理解：『内容項目（22項目）』を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること。②人間理解：「道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること。」③他者理解：「道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということ」を前提として理解すること。
 ⇒ 道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気付かせ、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深めていけるようにする！
 ⇒ 道徳的価値自体を観念的に理解するのではなく、道徳的価値を含んだ事象や自分自身の体験などを通して、そのよさや意義、困難さ、多様さなどを理解する！
- *2「自己を見つめる」：自分との関わり、これまでの自分の体験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、さらに考えを深めること。
- *3「物事を多面的・多角的に考える」：①物事を一面的に捉えるのではなく、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むこと。例）理解：価値理解・人間理解：他者理解、等②二つの概念が互いに矛盾、対立しているという二項対立の物事を取り扱い、対立の立場それぞれから考えること。
- *4「自己の生き方についての考えを深める」：①道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止める。②他者の多様な感じ方・考え方に触れることで身近な集団の中で自分の特徴を把握し、伸ばしたい自己を深く見つめる。③これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができる。
- *5「道徳的判断力」：様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力、「道徳的心情」：道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情である、「道徳的実践意欲と態度」：道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働きであり、道徳的態度は、それに裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え、「道徳性」：人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳教育は道徳性を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度である。

「手品師」：「誠実の大切さについて考え発表する」ではなく、「手品師が劇場へ行くか、少年に会いに行くかを迷う場面で、どうすることが一番誠実なのかを考え、発表する。」or「最後に手品師が少年の前で手品をしている場面で、誠実さはどこにあるか…」

III 道徳科における「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導法（イメージ）

	登場人物への自我関与中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的学習
ねらい 焦点化 重点化	教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技などの疑似的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。
導入	道徳的価値に関する内容の提示 アンケート調査や発問を通して、本時に扱う道徳的価値へ方向付ける。（学習前の当該道徳的価値への見方・考え方を把握する。）	問題の発見や道徳的価値の想起など ○教材や日常生活から道徳的な問題を見付ける。○自分たちのこれまでの道徳的価値の捉え方を想起し、道徳的価値の本当の意味や意義への問いをもつ（原理・根拠・適用への問い）。（学習前の当該道徳的価値への見方・考え方を把握する。） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">「はしのうえのおおかみ」：何が問題か⇒「ここでは一本橋で一人しか通れないこと」</div>	道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など ○教材の中に含まれる道徳的価値に関わる葛藤場面を把握する。 ○日常生活で、大切さが分かってもなかなか実践できない道徳的行為を想起し、問題意識をもつ。 （学習前の当該道徳的価値の見方・考え方を把握する。）
展開	登場人物への自我関与 教材を読んで登場人物の判断や心情を類推することを通して、道徳的価値を自分との関わりで考える。【教師の発問例】「どうして主人公は、○○という行動を取ることができたのだろう（又はできなかったのだろう）」、「主人公はどういう思いをもって△△という判断をしたのだろう」、「自分だったら、主人公のように考え、行動することができるだろうか」 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">ゆさぶり=収束法「約束を破ってはいけないのか」「誰に対して誠実になるとよいのだろうか」「約束と夢では、どちらが大切だろうか」「劇場に行くとスターになることは、誠実ではないのだろうか」</div>	問題の探究（道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など） ○道徳的な問題について、グループなどで話し合い、なぜ問題となっているのか、問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのかなどについて多面的・多角的に考え、議論を深める。（グループでまとめたりしない！） ○道徳的な問題場面に対する解決策を構想し、多面的・多角的に検討する。 【教師の発問例】「ここでは何が問題になっていますか」、「何と何で迷っていますか」、「なぜ■■（道徳的諸価値）は大切なのでしょう」、「どうすれば■■が実現するのでしょうか」、「同じ場面に出会ったら自分ならどう行動するのでしょうか」、「なぜ、自分はそのように行動するのでしょうか」、「よりよい解決方法にはどのようなものが考えられるのでしょうか」 探究のまとめ（解決策の選択や決定・諸価値の理解の深化・課題発見） ○問題を解決する上で大切にしたい道徳的価値について、なぜそれを大切にしたいのかなどについて話し合い等を通じて考えを深める。○問題場面に対する自分なりの解決策を選択・決定する中で、実現したい道徳的価値の意義や意味への理解を深める。○考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考えを再考する。○問題の探究を振り返って、新たな問いや自分の課題を導き出す。	道徳的な問題場面の把握や考察など ○道徳的行為を実践するには勇気がいることなど、道徳的価値を実践に移すためにどんな心構えや態度が必要か考える。○価値が実現できない状況が生まれた教材で、何が問題になっているか考える。 問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施など ○際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤などを理解する。○実際に問題場面を設定し、道徳的行為を体験し、その行為をすることの難しさなどを理解する。 道徳的価値の意味の考察など ○役割演技や道徳的行為を体験したり、それらの様子を見たりしたことをもとに、多面的・多角的な視点から問題場面や取り得る行動について考え、道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。○同様の新たな場面を提示して、取りうる行動を再現し、道徳的価値や実現するために大切なことを体感することを通して実生活における問題の解決に見通しをもたせる。
終末	まとめ ○学習前の当該道徳的価値への見方・考え方と学習後を振り返り、比較させ、成長を実感させる。（ポートフォリオで長いスパンを比較） ○教師による説話。○本時	○学習前の当該道徳的価値への見方・考え方と学習後を振り返り、比較させ、成長を実感させる。（ポートフォリオで長いスパンを比較） ○教師による説話。○本時	○学習前の当該道徳的価値への見方・考え方と学習後を振り返り、比較させ、成長を実感させる。（ポートフォリオで長いスパンを比較） ○教師による説話。○本時

「大劇場に出演しないで、子供のところへ行ってよかったと思う人？」8割が挙手
「もし自分だったらどうする？」と聞いて自我関与させると、9割が「劇場へ行く方」に挙手する。

「泣いた赤鬼が村の人たちとなるために、友達や青鬼が村で大暴れ、赤鬼がこらえられ、その結果、赤鬼は村の人になる。しかし、嫌われ者になった青鬼は赤鬼を思ったりして涙を流す」

その後、その場面でも、「赤鬼が青鬼を捜しに行き、青鬼と出会った」場面を設定で！

「誠実が大事である」という絶対解を、子供たちはみんな知っているけれど、「この場面での誠実とはどういうことだろう、と考えるなかで自我関与をして、納得解を子供が自分で見つけることがポイント！」

今日、学んだことを、これからの生活に生かすにはどうすればよいか？